

旧齋藤氏別邸庭園  
保存管理・整備基本計画 報告書

2013年3月

新潟市

## 凡 例

1. 本書は、2012年度に新潟市より東京農業大学が受託した「旧齋藤家別邸庭園の保存管理と整備に関する技術的研究」（研究代表者：東京農業大学造園科学科教授・鈴木誠）の成果報告書である。
2. 本受託調査研究は、東京農業大学国際日本庭園研究センターがおこない、必要に応じて、学識者・専門家である飛田範夫氏（長岡造形大学）、石川昇造氏（芳樹園）、松本恵樹氏（春秋設計工房）の指導および協力を得た。
3. 本調査研究の実施にあたっては、新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課、要松園・新潟ビルサービス共同企業体（新潟市旧齋藤家別邸指定管理者）の協力を得た。
4. 本庭園は平成24年11月16日、国の文化審議会が登録記念物（名勝地関係）とするよう文部科学大臣に答申している。よって本報告書では、本庭園の呼称を登録名称である「旧齋藤氏別邸庭園」に統一する。ただし、公の施設の呼称としては「新潟市旧齋藤家別邸」を用いる。
5. 旧齋藤氏別邸庭園の建造物名称は、建物の用途、構造、史料にもとづき、「主屋」（敷地南側の建物）、「茶室」（敷地北側の砂丘上の付属屋）、「待合」（敷地北東の付属屋）、「田舎屋」（敷地西側の付属屋）と呼称した。
6. 本書の執筆は、第3章第2節、第4章第3節を松本恵樹氏が、それ以外を栗野隆（東京農業大学）がおこなった。巻末図版は、松本恵樹氏が作成した。
7. 本書の編集は東京農業大学国際日本庭園研究センターでおこない、本学造園科学科教授・鈴木誠の監修のもと、同助教・栗野隆が担当した。
8. 庭園植栽について、和名表記の後に括弧書きで3ケタの数字を付している場合があるが、これは庭園内における樹木番号を示している。

# 目次

<b>第1章</b>	<b>計画策定の目的</b> .....	<b>1</b>
第1節	計画策定の経緯と目的	1
第2節	計画の対象	2
第3節	文化財登録の概要	3
第4節	検討体制と経過	4
<b>第2章</b>	<b>旧齋藤氏別邸庭園の歴史・空間・価値</b> .....	<b>5</b>
第1節	庭園の歴史	5
第2節	庭園の構成と意匠	8
第3節	庭園の本質的価値	10
<b>第3章</b>	<b>旧齋藤氏別邸庭園の現状と課題</b> .....	<b>12</b>
第1節	庭園全体の現状と課題	12
第2節	庭園の景観構成に関する現状と課題	12
第3節	庭園の地割・構成要素に関する現状と課題	16
第4節	これまでの庭園整備	23
第5節	庭園の発掘調査とその成果	28
<b>第4章</b>	<b>旧齋藤氏別邸庭園の保存管理・整備の内容と方法</b> .....	<b>35</b>
第1節	庭園の保存管理・整備の基本方針	35
第2節	庭園の視点場と区域の設定	36
第3節	景観の保存管理・整備の目標設定と方法	38
第4節	各区域の保存管理・整備の目標設定と方法	40
第5節	庭園植栽の取り扱い	51
<b>第5章</b>	<b>旧齋藤氏別邸庭園の現状変更の取り扱い</b> .....	<b>54</b>
第1節	現状変更の取扱方針	54
第2節	現状変更の届出を要する行為	54
第3節	現状変更の届出を要しない行為	55
<b>第6章</b>	<b>旧齋藤氏別邸庭園の保存管理・整備に向けて</b> .....	<b>58</b>
第1節	整備スケジュールの考え方	58
第2節	今後の課題	59

図版

## 図版および表一覧

### 本文挿図一覧

- |        |                                  |        |                                    |
|--------|----------------------------------|--------|------------------------------------|
| 図 1-1  | 新潟県における新潟市の位置                    | 図 3-30 | 東側石橋（調整後）                          |
| 図 1-2  | 旧齋藤氏別邸庭園位置図                      | 図 3-31 | 石橋の調整の施工手順                         |
| 図 1-3  | 旧齋藤氏別邸庭園周辺図                      | 図 3-32 | 待合の軒内（復旧前）                         |
| 図 2-1  | 新潟堀田楼真景（明治期、詳細年不詳）               | 図 3-33 | 待合の軒内（復旧後）                         |
| 図 2-2  | 絵はがき 新潟島清館（明治 40 年代か、新潟ハイカラ文庫所蔵） | 図 3-34 | 既存のウレタン処理部の撤去                      |
| 図 2-3  | 庭園の全体構成                          | 図 3-35 | メタルラスによる養生                         |
| 図 2-4  | 旧齋藤氏別邸庭園平面図                      | 図 3-36 | オガクズの充填                            |
| 図 3-1  | 主庭および茶庭の景観構成と視点場                 | 図 3-37 | ウレタンの充填                            |
| 図 3-2  | 仰角型広角景                           | 図 3-38 | 整形作業                               |
| 図 3-3  | 俯瞰型集中景                           | 図 3-39 | 治療後の状況                             |
| 図 3-4  | 庭園西側の橋上からの景観                     | 図 3-40 | 洞穴の状況                              |
| 図 3-5  | 斜面中腹広場からの景観                      | 図 3-41 | 防腐処理とウレタンの塗着                       |
| 図 3-6  | 待合からの景観                          | 図 3-42 | シリコンによる被覆                          |
| 図 3-7  | 庭園東の石橋とそこからの景観                   | 図 3-43 | サツキ（553）剪定前                        |
| 図 3-8  | クロマツとモッコクの枝の重なり                  | 図 3-44 | サツキ（553）剪定後                        |
| 図 3-9  | 蕨手が欠損した銅製灯籠                      | 図 3-45 | サツキ（583）剪定前                        |
| 図 3-10 | カリンの空洞化                          | 図 3-46 | サツキ（583）剪定後                        |
| 図 3-11 | 釣瓶の劣化状況                          | 図 3-47 | サツキ（622）剪定前                        |
| 図 3-12 | 土留めの劣化と表土の状況                     | 図 3-48 | サツキ（622）剪定後                        |
| 図 3-13 | 中庭の蹲踞周辺の様子                       | 図 3-49 | 幹剪断亀裂の状況                           |
| 図 3-14 | 袖塀と配電盤                           | 図 3-50 | バンドによる固定作業                         |
| 図 3-15 | 滝・池泉の護岸石の状況                      | 図 3-51 | 支柱設置状況                             |
| 図 3-16 | 位置づけを検討すべき斜面                     | 図 3-52 | 支柱設置後状況                            |
| 図 3-17 | 護岸石組を隠す下草類等                      | 図 3-53 | 資材置き場                              |
| 図 3-18 | 滝石組に侵入した実生木                      | 図 3-54 | A 区遺構平面図（縮尺 1 : 30）                |
| 図 3-19 | 下部に亀裂の入った護岸飛石                    | 図 3-55 | A 区全景（北から）                         |
| 図 3-20 | 主屋周辺のササ類の繁殖状況                    | 図 3-56 | C 孔から見た内部構造                        |
| 図 3-21 | 水面から露出したコンクリート                   | 図 3-57 | D 孔から見た内部構造                        |
| 図 3-22 | 田舎屋脇の石積みの状況                      | 図 3-58 | F 孔から見た内部構造                        |
| 図 3-23 | 竹林内の土留めの瓦                        | 図 3-59 | B 区遺構平面図（縮尺 1 : 30）                |
| 図 3-24 | 茶庭西側の風化した土留め                     | 図 3-60 | B 区調査前全景（西から）                      |
| 図 3-25 | 飛石に転用された齋藤家の瓦                    | 図 3-61 | B 区飛石検出後（西から）                      |
| 図 3-26 | コケの広がった園地                        | 図 3-62 | C 区遺構平面図・断面図（縮尺 1 : 30）            |
| 図 3-27 | 層塔の建つ樹林の状況                       | 図 3-63 | C 区調査風景（西から）                       |
| 図 3-28 | 旧齋藤氏別邸庭園課題抽出図                    | 図 3-64 | C 区全景（東から）                         |
| 図 3-29 | 東側石橋（調整前）                        | 図 3-65 | D 区遺構平面図（縮尺 1 : 30）・断面図（縮尺 1 : 20） |

- 図 3-66 D区全景（南東から）
- 図 3-67 A - A' 壁面の土層
- 図 3-68 E区遺構平面図（縮尺 1 : 30）
- 図 3-69 E区全景（北から）
- 図 3-70 E区全景検出後（西から）
- 図 3-71 旧齋藤氏別邸庭園発掘調査区位置図
- 図 4-1 旧齋藤氏別邸庭園視点場位置図
- 図 4-2 旧齋藤氏別邸庭園地区区分図

- 図 4-3 景観の保存管理・整備目標設定図
- 図 4-4 『築山庭造伝（後編）』の井筒（左：真の平庭、中：行の平庭、右：草の平庭）
- 図 4-5 旧岩崎邸庭園の井筒
- 図 4-6 清閑亭庭園の井筒
- 図 4-7 砂丘斜面地区の小地区区分図
- 図 4-8 茶庭地区の小地区区分図
- 図 4-9 旧齋藤氏別邸庭園基本計画図

### 本文表一覧

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 表 4-1 玄閑庭地区の保存管理・整備への方策     | 表 4-6 南東管理用地地区の保存管理・整備への方策 |
| 表 4-2 中庭地区の保存管理・整備への方策      | 表 4-7 北西管理用地地区の保存管理・整備への方策 |
| 表 4-3 池泉および芝庭地区の保存管理・整備への方策 | 表 4-8 庭園における本質的価値を有する樹種    |
| 表 4-4 砂丘斜面地区の保存管理・整備への方策    | 表 4-9 伐採等を検討した樹木の一覧        |
| 表 4-5 茶庭地区の保存管理・整備への方策      | 表 6-1 庭園の整備スケジュールの考え方      |

### 巻末図版一覧

- 旧齋藤氏別邸庭園立面図キープラン
- 大滝 立面図
- 大滝右岸 立面図
- 大滝左岸 立面図
- 流れ右岸 立面図 ア
- 流れ右岸 立面図 イ
- 流れ右岸 立面図 ウ
- 流れ左岸 立面図 ア
- 流れ左岸 立面図 イ
- 流れ左岸 立面図 ウ
- 池護岸 立面図 A
- 池護岸 立面図 B

- 池護岸 立面図 C
- 池護岸 立面図 D
- 池護岸 立面図 E
- 池護岸 立面図 F
- 池護岸 立面図 G
- 池護岸 立面図 H
- 池護岸 立面図 I
- 池護岸 立面図 J
- 池護岸 立面図 K
- 旧齋藤氏別邸庭園課題抽出図
- 旧齋藤氏別邸庭園基本計画図

## 第1章 計画策定の目的

### 第1節 計画策定の経緯と目的

旧齋藤氏別邸庭園（新潟市中央区西大畑町）は、新潟を代表する財閥、齋藤家の4代喜十郎が大正5年（1916）頃に敷地を取得し、大正9年（1920）頃に完成したとみられる別荘庭園である。当地は、喜十郎が夏季に別荘として過ごしたことから、「夏の別荘」とも呼ばれた。

本別邸については、太平洋戦争終結後の進駐軍による接收、昭和20年代以降の所有者の変更等にもない、庭園と建築に改造の手がおよんだ。平成17年には、当時の所有者が条件付き競売物件としたことを契機に市民有志「旧齋藤家夏の別邸の保存を願う市民の会」（後の「旧齋藤家別邸の会」、平成24年に解散）による保存運動がおこり、市議会は本別邸の保存を採択した。これを受けて新潟市は平成21年に敷地の公有化をはかった。

敷地の公有化を経て、平成23年3月には、新潟市に設置された「旧齋藤家別邸活用等検討委員会」（会長：東京農業大学教授・鈴木誠）を中心として、建造物、庭園、歴史資料等に関する基礎的調査を実施し、『旧齋藤家別邸基本調査報告書』（新潟市、2011年）、『旧齋藤家別邸庭園調査報告書』（新潟市、2012年）において文化的遺産としての価値を確認し、さらに、『旧齋藤家別邸整備活用計画』（旧齋藤家別邸活用等検討委員会、2011年）において地域資源としての保存管理・活用等に関する基礎的計画を検討してきた。以上の調査成果や検討内容をふまえ、主屋、茶室等の保存修理がおこなわれ、平成24年6月より一般公開が開始された。特に庭園については、新潟地方を代表する近代和風庭園として、国の文化審議会が平成24年11月16日、これを登録記念物（名勝地関係）とするよう文部科学大臣に答申している。

しかし、本来建造物とセットであるべき庭園については、齋藤家の所有を離れて以後、所有者変更にもなう庭園の改変、樹木の経年変化等にもない、当初の庭園景観、地割構成と異なる部分も存在する。また、護岸や滝石組等の構成要素についても、劣化が進んでいるものも認められ、庭園をいかなる姿として保存管理・整備し、後世に継承していくかという検討が急務となっている。さらに、本別邸が所在する西大畑およびその周辺には、旧伊藤文吉家別邸（北方文化博物館新潟分館）、旧日本銀行新潟支店長役宅（砂丘館）、旧市長公舎（安吾 風の館）、旧小澤家住宅、新潟市美術館など、文化的な資源が多く存在し、本別邸は、それらの資源のほぼ中央に位置する公共庭園であることから、本地域の文化的資源の拠点的存在としての可能性を有する点でも、旧齋藤氏別邸庭園の本格的な整備基本計画が期待されている。

以上の経緯をふまえ、新潟市は東京農業大学国際日本庭園研究センターに、庭園の保存管理・整備の基本計画の策定支援に関する検討業務を委託した。

本検討では、庭園の現状に関する課題を明らかにし、その課題に対処するための具体的な手立てや方法を導き、登録記念物としての現状変更の取り扱い等についても整理し、今後の庭園の保存管理・整備に関する基本計画を定めるために必要な基礎資料を作成することを目的とした。

## 第2節 計画の対象

旧齋藤氏別邸庭園が所在する新潟市は、県北東部（下越地方）に位置する。市の中心部にあたる信濃川河口部は古くから港が開かれ、開化期における開港五港のひとつであり、水運交通の要衝として栄えた。庭園は、旧市街地であった信濃川左岸側の旧新潟町と右岸側の旧沼垂町を連絡する萬代橋（万代橋）から北に1.2kmほどのところにあり、日本海に面した寄居浜までは0.7kmと、海浜にほど近い西大畑町に所在する。庭園の周辺地形は日本海に沿って続く砂丘、斜面地、低地が連なる地形的に変化のある場所で、界限には、旧伊藤文吉家別邸（北方文化博物館新潟分館）、老舗料亭の行形亭、旧日本銀行新潟支店長役宅（砂丘館）など、良質な近代和風建築群が現存し、風情のある景観をとどめている。



図1-1 新潟県における新潟市の位置



図1-2 旧齋藤氏別邸庭園位置図



図1-3 旧齋藤氏別邸庭園周辺図

### 第3節 文化財登録の概要

平成24年11月16日、国の文化審議会は旧齋藤氏別邸庭園を登録記念物（名勝地関係）とするよう文部科学大臣に答申した。文化財登録の概要を記す。

種別	登録記念物（名勝地関係）
登録名称	旧齋藤氏別邸庭園（きゅうさいとうしべっていていえん）
所在地	新潟県新潟市中央区西大畑町576番2 外9筆
所有者	新潟市
登録面積	4,400.30㎡
登録範囲	新潟県新潟市中央区西大畑町 576番2、576番3、576番4、576番5、 576番6、576番7、578番7、578番8 同 西大畑町字大道下 583番1、583番5
登録基準	名勝地関係 一（造園文化の発展に寄与しているもの）
登録説明	『月刊文化財』平成25年2月号（No.593）p.35より転載）

江戸時代に新潟の清酒問屋であった齋藤氏は、近代以降、海運業・銀行業などを通じて新潟の財閥の一つに成長した。衆議院議員および貴族院議員を歴任した第四代の齋藤喜十郎（庫吉、1864～1941）は、大正6～9年に新潟砂丘の東南の地に別邸を営み、開放的な和風建築を中心に砂丘地形を利用した独特の意匠・構成の庭園を造営した。

別邸の庭園は、表門から玄関への導入路周辺の庭園、その西に塀・中門を介して連続する中庭、二階建の主屋の北側に展開する主庭の三つの部分からなり、それぞれ飛石の園路で結ばれている。

特に、主庭は砂丘の高低差を活かして造られた回遊式庭園で、庭樹も砂防林のクロマツを主体とする。主屋に近い斜面の裾部には石組の池泉が広がり、斜面上方の高台には茶室および腰掛けがあり、その周辺に露地庭が展開する。露地庭には砂丘上のマツが根を露出させて独特の形態に成長を遂げた「根上がりの松」が庭園の景物となっている。斜面を利用して大滝および流れが設けられ、海老ヶ折石・佐渡赤玉石など地域に固有の石材を用いるところに特質がある。

作庭には、東京の根岸の庭師で、東京飛鳥山の渋沢栄一邸の作庭にもかかわった第二代目松本幾次郎（1858～1936）とその弟の松本亀吉（1877～1925）が関与したことが知られる。このように、旧齋藤氏別邸庭園は、大正時代における港町・商都新潟の造園文化の発展に寄与しているものと考えられる。



## 第4節 検討体制と経過

今回は、東京農業大学地域環境科学部造園科学科の教員と学生、旧齋藤氏別邸庭園に知見を有する専門家、行政担当者、本別邸の指定管理者を中心とした組織を編成し、現地調査、保存管理・整備の検討を実施した。以下に氏名を記す（所属等は平成25年2月現在）。

### 総括

鈴木誠（東京農業大学造園科学科教授）

### 測量調査・発掘調査・写真撮影・保存管理・整備計画検討

國井洋一（東京農業大学造園科学科准教授）

栗野隆（同大学造園科学科助教）

遠藤貴広、大澤達也、大戸萌、加藤徹、金井大輔、櫻井頌太郎、三浦菜々緒、望月法子（以上、同大学造園科学科4年）、天野公太朗、池谷有人（以上、同大学造園科学科3年）、石井隆行（以上、同大学造園科学科2年）

松本恵樹（春秋設計工房代表取締役、東京農業大学客員研究員）

### 指導・助言

飛田範夫（長岡造形大学建築・環境デザイン学科教授）

石川昇造（芳樹園代表取締役、日本庭園協会名誉会員）

### 新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課（施設所管課）

倉地一則（課長）、平原正行（企画・文化財係長）、小島真由美（同係主査）、今野誠（同）

### 新潟市旧齋藤家別邸指定管理者（要公園・新潟ビルサービス共同企業体）

松山雄二（館長）、土沼隆雄（副館長）、土沼直亮（ガーデンディレクター）

本検討は、以下の日程でおこなった。

- 平成24年5月13日：現地協議・打ち合わせ：栗野・今野・土沼隆雄・土沼直亮
- 平成24年7月5日：第1回意見聴取：鈴木・飛田・石川・倉地・平原・小島・今野・松山・土沼隆雄・土沼直亮
- 平成24年7月26～29日：測量調査・発掘調査：國井・栗野・遠藤・大戸・金井・三浦・天野・池谷・松本
- 平成24年8月28～30日：測量調査・発掘調査：栗野・大澤・加藤・櫻井・望月・石井・松本
- 平成24年10月22日：現地協議・打ち合わせ：栗野・松本・平原・小島・今野・土沼隆雄・土沼直亮
- 平成24年11月9日：第2回意見聴取：鈴木・栗野・松本・飛田・石川・倉地・平原・小島・今野・松山・土沼隆雄・土沼直亮
- 平成24年12月14～16日：測量調査・発掘調査：栗野・大澤・加藤・松本
- 平成25年2月14日：第3回意見聴取：鈴木・栗野・加藤・松本・飛田・石川・倉地・平原・小島・今野・松山・土沼隆雄・土沼直亮
- 平成25年2月15日：補足調査：栗野・加藤・松本